

平成4年度に北海道に発生した森林昆虫

ふくやま けんじ まえとう かおる ひがしうら やすとも ほら ひでほ
 福山 研二*・前藤 薫*・東浦 康友**・原 秀穂***
 (1993. 8. 4 受理)

はじめに

ここ数年は、夏は涼しく冬はあたたかいという状況が続いているが、このような気候の変動は森林昆虫の発生にどのような影響があるのだろうか。興味あるところである。ただし、昆虫の発生と気候の変動の関連や害虫発生の周期性などを解析するのはきわめて難しい上に、長年月の資料の蓄積が必要とされている。中国には千年近い害虫発生の情報の蓄積があるときく。さすが中国三千年の歴史である。中国には遠く及ばないものの北海道にも世界に誇るに足る発生情報の取集体制があり、1951年以来40年以上に及ぶ蓄積がある。そういうわけで今年も北海道内での森林昆虫の発生状況を北海道林務部道有林管理室、同森林整備課、北海道営林局と各支局、林木育種センター北海道育種場、各大学演習林、民有林所有者等からの発生報告と同定依頼、および北海道立林業試験場と森林総合研究所北海道支所が行った調査観察をもとに北海道森林保護会議でとりまとめた。なお、本稿をまとめるにあたり発生のお寄せいただいた関係各位の方々および害虫の同定をいただいた大阪芸術大学の駒井古実博士にこの場をお借りして感謝申し上げます。

なお近年は、林業関係機関の組織縮小等もあり、以前に較べて樹病、昆虫共に情報の集りが悪くなっています。人手不足で大変な時とは思いますが、せっかくこれまで続けてきた貴重な資料を無駄にしないためにも、関係機関はさらなるご助力をお願い致します。

1992年の発生の特徴

この年を特筆すべきこととしては、浜益から余市にかけての海岸に近いイタヤカエデの天然林でイタヤハムシの大規模な発生が見られたことである。イタヤハムシは卵で越冬し、春先孵化した幼虫はイタヤの葉を食害しながら成長し、地表で蛹

化するようである。食害の特徴はハンノキハムシやヤマナラシハムシとは異なり、集団で食害することはない。葉脈を網の目状に残すこともない。そのため、葉が褐変することはなく葉にたくさんの穴があく。しかし、食害がひどいときは2次的に展開した新葉が赤いため被害地が真っ赤に見えることがある。イタヤのほかにカエデ類、ブナ、トチノキなどを加害するといわれているが、今回はほとんどイタヤのみに発生している。

蛾類の発生は比較的低調であったし、ハバチもマツノクロホシハバチ以外にはほとんど発生が見られていない。また、ヤチダモに各種昆虫が発生するという珍しい現象もみられた。全体に広葉樹に昆虫の発生が多かったといえる。

新害虫

1992年度に発生した新たな害虫としては、月形町のヤチダモ防風林に発生したクロネハイイロハマキ (*Rhopobota naevana* (Huber)) と早来町のカシワ防風林に発生したシロフフユエダシャク (*Agriopis leucopharia* (D. S.)) があげられる。いずれも広葉樹の防風林に発生したことになる。

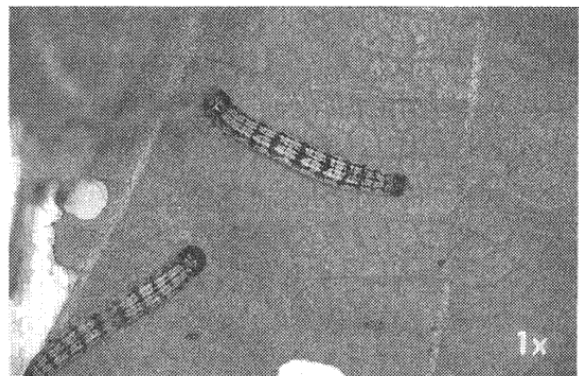


写真1 シロフフユエダシャク幼虫

シロフフユエダシャク：幼虫は体長15mmほどになる。幼虫の色彩や斑文には変異がある。年1化で蛹で冬を越す。名前のとおり成虫は冬に出現す

る。本州では2～3月に成虫が出現するそうだが、北海道では不明。コナラ、クヌギ、ミズナラなどブナ科の植物を食べる。今回もそうであったが、他のシャクガ類などと混在発生することが多いそうである。

主な森林昆虫の発生動向

苗畑の昆虫：特に報告はなかった。

吸汁性の昆虫：幼齢造林地のオオアブラムシ類は昨年よりさらに増加した。帯広市に発生したイチイカタカイガラムシはその分布を足寄町、釧路市などにまで拡大している。

虫こぶ形成昆虫：ここ数年札幌市内のケヤキに虫こぶをつくるケヤキフシアブラムシが大発生している。最近の札幌都心のユキムシはほとんど本種といわれている（秋元，1991）。

食葉性の昆虫：厚田町のウダイカンパ二次性天然林に発生したクスサンは今年ほぼ同一地域に継続発生した。カラマツキハラハバチの発生は終息した。マツノクロホシハバチはえりも町と様似町、浦河町で発生が続き、天然林のキタゴヨウに広く発生が継続しているほかストロブマツ造林地も食害されている。オオアカズヒラタハバチは昨年同様由仁町で発生が継続したほか、定山溪簾舞のヨーロッパトウヒ人工林に発生した。カラマツツツミノガの大規模な発生はおさまった。ミスジツマキシエダシャクの大発生は本年をもって終息し、これまでの発生の傾向としては農耕地に近い小面積の造林地に発生が多く見られたという報告がある。キバネセセリが定山溪簾舞のハリギリに継続発生した。天売島のドクガ発生は今年も継続し問題となっている。ハンノキハムシは今年はその密度は高まらなかった。石狩の浜益村から余市町、仁木町、古平町、小樽市蘭島にかけてのイタヤカエデの天然林にイタヤハムシが広く発生した。イタヤハムシの大規模な発生は1974年に倶知安周辺の数百haに発生して以来18年ぶりである。この他札幌市内のムクゲにオオアカキリバが発生し、月形町のヤチダモ防風林にクロネハイイロハマキが発生。昨年新たに発生したホシシャクは本年も上芦別のヤチダモ人工林に継続発生し、燻煙剤による防除試験が行われた。早来町のカシワ防風林にシロフフユエダシャクが発生、他にマイマイガ、シャクガ類、シャチホコガ類が混在発

生していた。

新梢・球果の穿入昆虫：特に報告はなかった。

穿孔性昆虫：津別町の恩根と相生のエゾマツ天然林においてヤツバキクイムシによる加害がかなり報告されている。阿寒横断道路周辺のヤツバキクイムシ被害では新しい枯損はあまりでなくなったようである。

緑化樹木の昆虫：イチイカタカイガラは帯広市一帯から分布を拡大し釧路市、足寄町などでもイチイに発生している。札幌市のイチイのナガチャコガネによる被害は今年はやや減少した。

平成4年（1992）の1～12月に報告された関係文献

- 1) 秋田米治：タイリクサラグモ *Linyphia emphan* の体サイズを用いた齡の判定法，ACTA ARACHNOLOGICA 41 (2), 215-222, 1992.
- 2) ———：人工林と天然林でのクモ類の密度と多様度，40回日北支論，21-23, 1992.
- 3) ———：大雪山の高地幼齢造林地と羊ヶ丘幼齢造林地のクモ相の比較，森林保護232：46-47, 1992.
- 4) 秋元信一：ケヤキに虫こぶを作るアブラムシの生態と分布，森林保護226：41, 1992.
- 5) 奥村日出雄ほか：北見地方におけるミスジツマキリエダシャクの被害状況について（Ⅲ），平成3年度林業技術研究発表会大会論126-127, 1992.
- 6) ———ほか：北網地方におけるミスジツマキリエダシャクの発生と林分被害，北方林業，44：261-264, 1992.
- 7) 尾崎研一：エゾマツカサアブラムシのゴールの取容力，1992年度日昆・応動昆大会講，1992.
- 8) ———：エゾマツカサアブラムシと虫こぶ，林業新知識463，22-23, 1992.
- 9) ———：Effects of host-tree susceptibility on the population dynamics of gall-making aphids, Proceedings XIX International Congress of Entomology, 1992.
- 10) ———：Reproductive schedule of the fundatrices of *Adelges japonicus* Monzen (Homoptera: Adelgidae) in relation to host phenology, Appl. Entomol. Zool. 27 (3): 407-412, 1992.
- 11) 上条一昭：ナガチャコガネの習性と防除法，森林保護227：2-4, 1992.
- 12) ———：北海道における針葉樹球果昆虫の種類，森林保護230：26-28, 1992.
- 13) 北川善一：平成4年度に発生が予想される森林病虫獣害について，普及情報，81：5-7, 1992.

- 14) Kudo S., K. Maeto and K. Ozaki : Maternal care in the red-headed spruce wed-spinning sawfly, *Cephalcia issykkii* (Hymenoptera : Pamphiliidae), J. Insect Behavior 5 (6) : 783-795, 1992.
- 15) 佐々木満ほか：網走におけるオオアカズヒラタハバチの被害と粘着剤による防除試験，平成3年度林業技術研究発表会大会論130-131, 1992.
- 16) 鹿戸輝雄ほか：日高東部におけるマツノクロホシハバチの被害について（第2報），平成3年度林業技術研究発表会大会論132-133, 1992.
- 17) Shinohara, A. and H. Hara : A new host record for *Pamphilius gracilis* (Hymenoptera, Pamphiliidae), Jpn. J. Ent., 60 : 432, 1992.
- 18) 菅原 豊：スギノアカネトラカミキリの捕獲調査について，平成3年度林業技術研究発表会大会論134-135, 1992.
- 19) 清和研二：ハルニレの種子散布と稚苗の出現，日林北支論，40 : 77-79, 1992.
- 20) 館 和夫：イチイの保護管理，普及情報，84 : 6-7, 1992.
- 21) 野中道晴：最近の深川地方における森林病虫獣害について，普及情報，84 : 7-8, 1992.
- 22) 原 秀穂・東浦康友：ミスジツマキリエダシャクの生活史と食害の特徴，光珠内季報，87 : 11-16, 1992.
- 23) ———・東浦康友：卵寄生蜂によるミスジツマキリエダシャクの生物的防除試験，平成3年度林業技術研究発表会論文集，128-129, 1992.
- 24) 福山研二・佐々木克彦・中津 篤：平成4年度北海道森林保護事業推進協議会（第14回）報告，森林保護231 : 33-36, 1992.
- 25) 福山研二：ヤツバキタイムシ1問1答—阿寒横断道路周辺のエゾマツ枯損—，樹氷42（2）：37-41, 1992.
- 26) ———・ほか：シギゾウムシ類の食害は本当に天然更新にとってマイナスか？，日昆52回大会・36回応動昆大会講，147, 1992.
- 27) ———・ほか：平成3年度に北海道に発生した森林昆虫，北方林業，44（10）：271-274, 1992.
- 28) ———：ウダイカンバにクスサンが大発生，森林保護232 : 41, 1992.
- 29) ———：第7回北海道森林保護会議報告，森林保護228 : 9, 1992.
- 30) ———：平成3年度に北海道に発生した森林昆虫の動向，森林保護，228 : 10, 1992.
- 31) 前藤 薫：アブラバチ科それともコマユバチ科アブラバチ亜科？，日昆52回大会・36回応動昆大会講，103, 1992.
- 32) ———：Japanese species of the *Myosoma* generic group (Hymenoptera, Braconidae), Jpn. J. Ent. 60 (4) : 714, 1992.
- 33) ——— & S. Kudo : A new euphorine species of *Aridelus* (Hymenoptera, Braconidae) associated with a subsocial bug *Elasmucha putoni* (Heteroptera, Acanthosomatidae), Jpn. J. Ent. 60 : 77-84, 1992.
- 34) Papp, J. & K. Maeto : *Triaspis curcusiovorus* sp. n. (Hymenoptera, Braconidae) from Japan, parasitizing acorn weevils, Jpn. J. Ent., 60 : 797-804, 1992.
- (*森林総合研究所北海道支所
**北海道立林業試験場
***北海道立林業試験場道東支場)

表-1 苗畑昆虫および緑化樹の昆虫

種 類	加 害 樹 種	発 生 地 (市町村・発生面積㎡)
ナガチャコガネ	イチイ・ツツジ類, 針広	札幌市内に多発するも本年は被害は減少
イチイカタカイガラ	イチイ	帯広市内のほか釧路市足寄町などにひろがった。

表-2 オオアブラムシ類の発生と防除面積

所 管	トドマツオオアブラムシ		防除面積(ha)	エゾマツオオアブラムシ	
	発生面積(ha)	本 数		発生面積(ha)	本 数
北海道局	770.04			423.59	—
函館支局	29.00	14,000		11.00	5,000
旭川支局	12.95	8,350		46.05	27,645
帯広支局				119.00	—
北見支局					
小 計	811.99	22,350		176.05	32,645
道 有 林	751.90	625,400	194.88	918.88	768,800
民 有 林	416.32	549,134	334.32	832.11	1120,745
小 計	1168.22	1174,534	529.20	1750.99	1889,545
合 計	1980.21	1196,884	529.20	1927.04	3779,090

発生面積は被害区域面積

表-3 吸汁性の昆虫

種	類	加害樹種	発生地(市町村・発生区域面積ha) 摘要
アオキシロカイガラムシ		イチイ	札幌市内の庭園
イヌガヤワタカイガラムシ		イチイ	札幌市内の庭園
イチイカタカイガラ		イチイ	帯広市一円。足寄町, 釧路市に分布が広がりがつつある
トドノネオオワタムシ		トドマツ・ヤチダモ	羊ヶ丘ヤチダモ人工林にて被害が発生

表-4 虫こぶ形成昆虫

種	類	加害樹種	発生地(市町村・発生区域面積ha) 摘要
クリタマバチ		クリ	島牧村(2.37) 余市などのクリ園には常時発生している模様

表-5 食葉性の昆虫

種	類	加害樹種	発生地(市町村・発生区域面積ha) 摘要
カラマツツツミノガ		カラマツ	報告なし
マエアカスカシノメイガ		ヤチダモ	発生減少
ドクガ		カシワナラ ハンノキ	羽幌町(天売島) (18.48)
マイマイガ		グイマツ, カラマツ	深川市(29.01), 美唄市(1.52), 遠別町(0.16)
ホシシャク		ヤチダモ	上芦別一円に継続発生
ミスジツマキリエダシャク		カラマツ	終息
シロフフユエダシャク		カシワ	早来町(10) 防風林
クスサン		ウダイカンバ	厚田村(60) 昨年に引続き同一地域に発生
キバネセセリ		ハリギリ	札幌市簾舞(0.3)
クロネハイイロハマキ		ヤチダモ	月形町(5) 防風林
オオアカキリバ		ムクゲ	札幌市羊ヶ丘(10本)
オオアカズヒラタハバチ		エゾマツ アカエゾマツ ヨーロッパトウヒ	千歳市, 長沼町, 札幌市簾舞(0.5) 密度は低下したものの被害は継続している
カラマツキハラハバチ		カラマツ, グイマツ	報告なし
ハムグリハバチの1種		シナノキ	札幌市羊ヶ丘(数本に被害が集中)
マツノキハバチ		ハイマツ	報告なし
マツノクロホシハバチ		キタゴヨウ ストロブマツ ヨーロッパアカマツ バンクスマツ	えりも町(3,023.16), 様似町(4,909.12) 天然林に継続発生。 枯損木もでている模様。
ハンノキハムシ		ハンノキ	報告なし
ヤマナラシハムシ		ポプラ	札幌市羊ヶ丘(0.5)ほとんど終息。
イタヤハムシ		イタヤカエデ	浜益村(19,035), 古平町(470), 小樽市(4,239), 赤井川村(13,000), 蘭島(200), 仁木町(20), 余市町(794)

表-6 新梢・球果・堅果の穿入昆虫

種	類	加害樹種	発生地(市町村・発生区域面積ha) 摘要
マツノシンマダラメイガ		マツ類	報告はないが, 各地に散見される
サンカクモンヒメハマキ		ミズナラ	報告はない 樹上でドングリに穿入する
クロサンカクモンヒメハマキ		ミズナラ	報告はない 地表でドングリに穿入する
カラマツタネバエ		カラマツ	報告なし 被害実態等を調査中

表-7 穿孔性昆虫

種	類	加害樹種	発生地(市町村・発生区域面積ha) 摘要
シラカバナガタムシ		シラカンバ	報告はないが継続発生していると思われる
マツキボシゾウムシ		マツ類	報告なし
カラマツヤツバキクイムシ		カラマツ	報告なし
ヤツバキクイムシ		エゾマツ	津別町(70)